

フジ・メディア・ホールディングス レポート

株主の皆様へ

第68期 報告書 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで



 FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

代表取締役会長
(Chairman & CEO)

日枝 久



ごあいさつ

Top Message

代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓

フジテレビからフジ・メディア・ホールディングスへ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当期は、米国の金融不安に端を発した世界経済の急激な悪化が我が国の経済にも大きな影響を及ぼし、多くの企業が業績を悪化させ広告費を削減するなど、当社グループにとっても大変厳しい事業環境でした。そのような状況にあって、当社は昨年10月1日をもって放送法に定める認定放送持株会社体制に移行し、グループ各社の収益体質の改善とグループ内の事業連動を推進し、事業基盤の強化と収益性の向上を図ってまいりました。当期の連結業績は、中核である㈱フジテレビジョンの放送収入が減収となったことにより連結売上高は減収、営業利益と経常利益はともに減益となりましたが、当期純利益は増益となりました。また、その他主要子会社では業績回復・向上を果たしております。逆風下でありながらも当社は着実な成長に向け新たな体制のスタートを切ることができたと考えております。

現在、放送をはじめとするメディア産業を取り巻く事業環境は大きな変革期を迎えております。当社といたしましては、この機会を

メディア・グループとしての「第二の創業期」として捉え、国内外から高く評価される「我が国を代表するメディア・コングロマリットを目指す」という長期的なグループ経営ビジョンの実現を図ってまいります。あらゆる事業環境の変化にも即応し、持続的かつ安定的な成長を遂げ、「グループ経営の強化」、「経営資源の選択と集中」、「事業再編への積極的取組み」に力を注ぎ、グループ企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えるべく努めてまいり所存です。

なお、当社の懸案であった株LDH(旧株ライブドア)に対する損害賠償請求訴訟につきましては、東京地裁の和解勧告を受けて、本年1月22日に請求額345億円の90%の約310億円で裁判上の和解が成立いたしました。本件は、当社が長年抱えていた“資本のねじれ現象”の解消という資本政策の総決算として、グループの新たな発展へのはずみとなる大きな意義を有するものと考えております。

何卒、これからも当社グループに対して倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 21 年 6 月

Contents

Top Message ・ 1
Top Interview ・ 2
Fuji Media Holdings Outline ・ 6
CSR通信 Vol.5 ・ 13

特集 フジテレビ開局50周年 ・ 14
連結財務諸表 ・ 17
主要各社業績 ・ 19

会社概況 ・ 20
株式情報 ・ 21
株主メモ ・ 22

Top Interview

トップが語るフジ・メディア・ホールディングス

代表取締役社長

豊田 皓



平成21年3月期の業績の概要をご説明下さい。

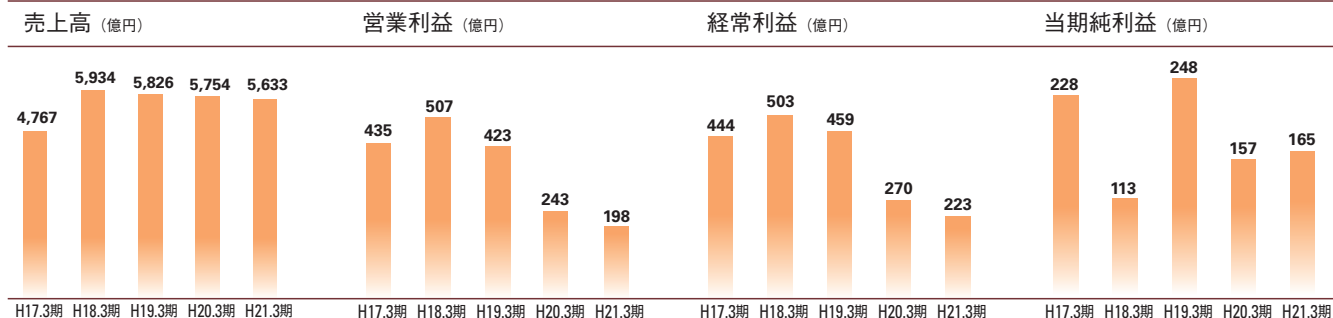
当期は、米国発の世界的経済危機の影響により景気が急激に後退し、多くの企業が業績悪化による広告出稿予算の縮小を余儀なくされました。放送メディア広告収入の比重が高い当社グループにとりましてはたいへん厳しい事業環境でした。

このような中において、当期の業績は、主力の放送事業の減収が大きく、連結売上高は前期比2.1%減収の5,633億2,000

万円、営業利益は前期比18.6%減益の198億3,000万円、経常利益は前期比17.3%減益の223億6,500万円でした。当期純利益は、特別利益に(株)LDH(旧(株)ライブドア)からの受取和解金を計上したことなどで前期比5.0%増益の165億6,700万円となりました。

当社グループは昨年10月、当社を持株会社とするグループ経営体制へ移行しました。グループ各社には、従来に増して費用の効率的運用を徹底し、収益体質の強化を図るとともに、グループ内の事業連動を推進してまいりました。その結果として、連結営業費用の大幅減少、課題であった(株)ディノスの黒字化、

Financial Highlights 連結財務ハイライト



そして(株)ポニーキャニオンの増益といった形で実を結びました。厳しい環境下での認定持株会社移行の初年度としてはまずまずのスタートを切ることができたと考えております。

各事業セグメント別の業況はいかがでしたか？

●放送事業

(株)フジテレビジョンは、広告市況低迷による放送収入の減収と、イベント・映画・ビデオなどその他事業(非広告事業)の前年度の反動減により、売上高は減収となりました。営業費用は番組制作費や一般管理費など費用の圧縮とその他事業の収支改善により大幅に減少しましたが、放送収入の減収分を補うには至らず、営業利益は減益となりました。(株)ニッポン放送も、放送収入が減少する中、減収減益となりました。

●制作事業

厳しい受注環境の中で各社とも売上拡大と費用圧縮による収益の確保に努めましたが、番組やイベント関連の受注が減少したことなどにより減収減益となりました。

●映像音楽事業

(株)ポニーキャニオンは、aikoのアルバムCDが好調なセール

スを記録したほか、グループ内の事業連動による「羞恥心」関連作品が大ヒットしました。また、宣伝広告費など費用の圧縮により、微減収ながら大幅増益でした。(株)フジパシフィック音楽出版も、著作権部門、原盤部門ともに好調で、過去最高の売上高、営業利益を記録しました。

●生活情報事業

当期から(株)サンケイリビング新聞社と(株)リビングプロシードの業績が加わり、増収となりました。また、前年度まで業績が低迷していた(株)ディノスは、ファッション系カタログ通販やテレビ通販の売上が好調であったことに加え、不採算催事の中止や通販経費、一般管理費等の削減に努めたことで、大幅に業績を改善し、通期黒字化を達成しました。

●広告事業

前年度に広告会社4社の経営統合により発足した(株)クオラスは、厳しい広告市況の影響を受け、赤字となりました。

●その他事業

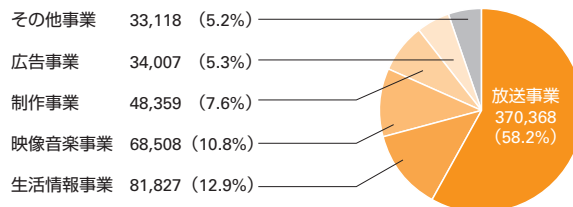
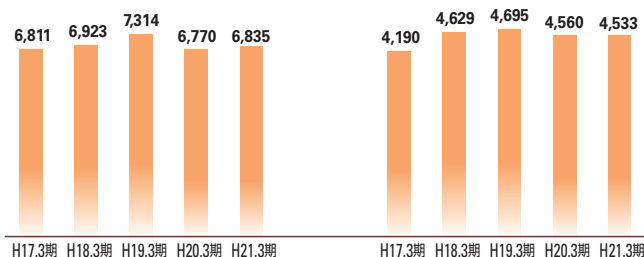
(株)フジミックはソフトウェア開発受注や機器販売が低調で減収減益となりました。また、(株)扶桑社は、出版業界全体が低迷する中、書籍、雑誌ともに売上が伸び悩み、営業損失が拡大しました。

Financial Highlights 連結財務ハイライト

総資産 (億円)

純資産 (億円)

セグメント別売上高 (百万円) ※ () は構成比



主力の(株)フジテレビジョンの業績を詳しくご説明ください。

(株)フジテレビジョンの当期の業績は、売上高は9.2%減収の3,487億7,700万円、営業利益は20.3%減益の178億7,200万円(※)となりました。

※この数値は、昨年10月1日の分割前の(株)フジテレビジョンの数値と分割により新設された(株)フジテレビジョンの数値を合算した参考値です。

放送収入は、広告市況の厳しさを反映して前期比7.0%減の大幅な減収となりました。そのうちネットタイムセールスは、好調な視聴率を背景に健闘しましたが、前年度の「ワールドカップバレー」の反動もあり、前期比1.4%の減収となりました。ローカルタイムセールスは7.7%の減収、スポットセールスはかつてない厳しい環境で、前期比12.9%の減収となりました。

一方、放送事業原価の多くを占める番組制作費については、収入動向に応じた弾力的な運用を行い、前期比で6.3%削減しました。同時に、番組コンテンツの質の維持・向上に努め、フジテレビは、当期も番組視聴率トップを堅持し、5期連続の「三冠王」を達成することができました。

その他事業は、イベント事業では2月に公演を開始した「コ

ルテオ」が好評を博し、映画事業も「容疑者Xの献身」、「ザ・マジックアワー」が大きな興行収入をあげましたが、前年度は、通期にわたり収益に貢献した「ドラリオン」や大作映画などがあったことなどから減収となりました。ビデオ事業も、「DRAGON BALL」シリーズの売上減少の影響などで減収となり、その他事業全体では、前期比23.9%の減収となりました。ただし、費用面では、「お台場冒険王」の収支を大幅に改善するなど、費用コントロールを徹底したことにより、その他事業原価は大きく減少し、前期比23.5%減となりました。

また販売費及び一般管理費についても、放送収入の減少に伴い代理店手数料が減少したほか、費用全般の効率運用を徹底し、収益の確保に努めました。

今期(平成22年3月期)の業績見通しはいかがですか？

今期の業績は、連結売上高5,512億円、営業利益128億円、経常利益161億円、当期純利益91億円の減収減益を見込んでおります。

主力である放送事業では(株)フジテレビジョンは減収減益を予想しております。下期以降、広告市況の回復が期待されるものの、当面は厳しい状況が続くと予想し、放送収入は前年度より

	売上高			営業利益又は営業損失(△)		
	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	増減(%)	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	増減(%)
放送事業	406,125	370,368	△ 8.8	22,765	18,700	△ 17.9
制作事業	49,758	48,359	△ 2.8	2,258	1,826	△ 19.1
映像音楽事業	68,899	68,508	△ 0.6	1,375	2,250	63.6
生活情報事業	63,254	81,827	29.4	△ 2,455	90	—
広告事業	27,917	34,007	21.8	383	△ 58	—
その他事業	36,129	33,118	△ 8.3	△ 23	△ 669	—
消去又は全社	(76,601)	(72,867)	—	68	(2,310)	—
合計	575,484	563,320	△ 2.1	24,372	19,830	△ 18.6

も減少することを見込んでおります。一方、その他事業部門ではイベント事業は「コレオ」が大変好調に推移しており、ビデオ・MD・モバイル事業も堅調を見込み、映画事業では開局50周年記念作品「アマルフィ 女神の報酬」や「HACHI 約束の犬」などをはじめとする作品の公開が予定されておりますので、その他事業の増収と収益への貢献を期待しております。

主要子会社のうち、㈱ディノスは、商品の充実と成長分野であるインターネット通販をさらに強化しながら、費用コントロールを引き続き徹底し、安定的に利益を確保してまいります。

㈱ポニーキャニオンは、パッケージソフトの市場が縮小基調にある中で、音楽作品、映像作品のラインナップ強化を図ります。

また、業績の低迷している㈱扶桑社は、効率的な人事組織による人件費の大幅な削減等の費用の圧縮をはじめ様々な業務改善策を断行することで、今期は通期での黒字化を見込んでおります。

今期、当社グループ子会社は各社とも厳しい事業環境が想定されますが、引き続き費用の合理的運用による体質強化、収益性の向上に努め、グループ内事業連動を積極的に推進してまいります。

今後のグループの中期的な経営方針をご説明下さい。

まず、当社グループの収益の主力である放送メディア事業についてお話しします。現在、経済環境の急激な悪化により放送収入(広告収入)が前年度を大きく下回っていますが、今後ともテレビに代わるマスメディアは存在せず、テレビの広告媒体価値は変わらないと考えております。今後も番組の質の向上に努め媒体価値の維持向上を図りながら、費用面のコントロールを確実に行うことで収益を確保し、引き続き安定的な成長を図っていきたくと考えております。

同時に、当社は、従来から、広告市況などの外部経済環境に影響されにくい強固な事業基盤を構築するために、自ら制作するソフト・コンテンツを放送においてだけでなく非広告事業においても積極的に活用し、収益の増加を図ってまいりました。認定放送持株会社体制のもとで、この方針をさらに推進してまいります。新たなコンテンツジャンルの開拓やモバイル、インターネットなどのデジタル通信領域での事業成長、海外市場での収益力強化など、ソフト自体の開発とともに出口の拡大を積極的に図り、ソフト・コンテンツ事業の領域の拡大にグループをあげてチャレンジしていきたいと考えております。

2期目に入る認定放送持株会社体制も順次整備を図ってまいります。グループ内でのヒト・モノ・カネといった経営資源の配分の最適化を進め、各社の主体的な企業活動を通じた自律成長を支援してまいります。それとともに、㈱フジテレビジョンを核としたコラボレーション、グループ内での事業連動、新規事業開発をさらに促進することに注力いたします。

当社は、認定放送持株会社体制のもとでグループ内の事業の選択と集中を図り、メリハリをつけた施策を推進してまいります。外部企業との事業提携やM&Aもその選択肢であり、本年5月14日に公表した㈱セシールの子会社化を目的とした公開買付けの実施もその一例です。将来的には、㈱ディノスとの経営統合によって、さらなるシナジーを実現し、グループの通信販売事業の成長拡大を図りたいと考えております。

ここしばらくは、当社グループにとっては大変厳しい事業環境が続くと思われれます。しかしながら、当社の将来ビジョンの軸はぶれることなく、メディア・グループとしてトップの地位を磐石なものにしていきながら、さらに事業領域を拡大させていき、世界に通用するメディア・コングロマリットを築くという長期的ビジョンの実現に邁進してまいります。

どうぞ引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

Fuji Media Holdings Outline

フジ・メディア・ホールディングス アウトライン

認定放送持株会社フジ・メディア・ホールディングスは、6グループ19社の中核子会社で構成されています。また、フジ・メディア・ホールディングスは事業面で緊密な関係を有する関連会社をはじめフジサンケイグループ各社と事業・文化活動においてさらに連携を強めていきます。

回 グループ組織概略図



(株)フジ・メディア・ホールディングス

関連会社

(株)産業経済新聞社、(株)サンケイビル、(株)ビーエスフジ、(株)フジランド、(株)スタジオアルタ 他

Broadcasting

放送グループ

TV Program テレビ番組



2008年3月31日から2009年3月29日まで
※同一番組は最高視聴率のみ掲載

	番組名	放送日	曜日	放送開始	放送分数	視聴率(%)
レギュラー番組	1 CHANGE・最終回	2008.7.14	月	21:00	84	27.4
	2 はねるのトビら	2008.9.3	水	19:57	57	23.6
	3 クイズ!ヘキサゴンII	2008.9.3	水	19:00	57	23.5
	4 土曜プレミアム・コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命新春スペシャル	2009.1.10	土	21:00	130	23.1
	5 木曜劇場・ラスト・フレンズ・最終回	2008.6.19	木	22:00	69	22.8
特別番組	1 2008 全日本フィギュア スケート選手権女子フリー	2008.12.27	土	19:15	129	23.1
	2 新春映画スペシャル・HERO	2009.1.3	土	21:00	160	22.6
	3 2008 北京五輪バレーボール 世界最終予選・男子・日本×アルゼンチン	2008.6.7	土	19:04	165	21.2
	4 2008 FNS歌謡祭	2008.12.3	水	19:00	258	19.7
	5 FNS 27時間テレビ! みんな笑顔のひょうきん夢列島!	2008.7.26	土	23:00	90	19.6

(株)フジテレビジョンは、平成20年度も引き続き、高い視聴率を維持することができました。ゴールデン(19時~22時)、プライム(19時~23時)、全日(6時~24時)の時間帯で、関東地区において民放テレビ局トップの視聴率を獲得し、5期連続の「三冠王」となりました。

■ Drama | ドラマ

平成20年度もフジテレビドラマは高いクオリティで話題を独占しました。月9では「CHANGE」が平均視聴率21.4%、最終回27.4%を記録したほか、木10では、生きることの意味と家族の再生を描き高い評価を得た「風のガーデン」で、11話すべてを演出した宮本理江子が文化庁芸術祭放送個人賞を受賞しました。

また昨年放送の「ガリレオ」がアジアンテレビジョンアワードを受賞したほか、同シリーズを映画化した「容疑者Xの献身」は日本アカデミー賞話題賞に輝きました。

そして平成21年、フジテレビ史上最大の制作体制で臨んだ「黒部の太陽」は開局50周年記念にふさわしいスケールで他を圧倒、あらためてフジテレビの制作力を見せつけました。フジテレビは新たな半世紀も新たな「ドラマ」を作り続けます。



風のガーデン

■ Variety | バラエティ

「クイズ!ヘキサゴンII」から誕生した“羞恥心”“Pabo”がNHK「紅白歌合戦」に出場するなど全国に羞恥心旋風を巻き起こしました。「爆笑レッドカーペット」はショートネタブームの火付け役として老若男女幅広いファンに支持されています。ゴールデンタイムの「ネプリーグ」「はねるのトビら」「とんねるずのみなさんのおかげでした」「めっちゃイケてるッ!」も好調で、



クイズ!ヘキサゴンII

お昼の「笑っていいとも!」「ライオンのごきげんよう」は皆様に愛され続けております。「人志松本のすべらない話」はスピンオフ企画も含めてDVDのセールスが250万枚を突破、絶好調です。

■ Life Information | 情報

日々のニュースを多角的視点から検証し、分かりやすく伝える朝の情報番組「とくダネ!」は引き続き好調で、月間平均視聴率は98ヶ月連続1位を堅持。医療・教育・環境のテーマには、特に積極的な問題提起を行っています。“日本の朝の顔”を代表する番組として話題的となっている「めざましテレビ」も好視聴率をキープ。「めざましムービー」のDVDシリーズは30万枚のヒットを記録しています。また夏のイベント「お台場冒険王ファイナル」はこの両番組が中心となって牽引、大成功に導きました。新情報番組「スパイスTV どーも☆キニナル!」も(株)ディノスと連動、斬新な演出で通販コーナーの売上を大きく伸ばしています。

特別番組としては4年目を迎えた「たけしの日本教育白書」を4時間40分の大型番組として放送、「教育」を軸に日本が抱える問題に果敢に挑みました。またドキュメンタリーでは「名門に生まれるということ」が国際エミー賞にノミネートされるなど、海外でも高い評価を得る番組を制作しています。

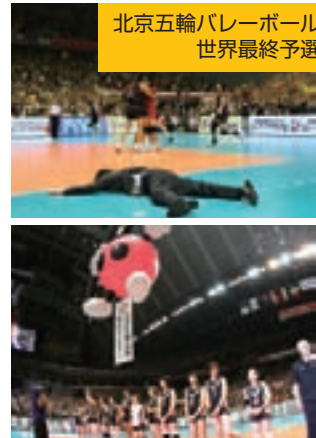


とくダネ!

■ Sports | スポーツ

平成20年度は北京五輪バレーボール世界最終予選をはじめ、オリンピックを巡るいくつもの感動のドラマを伝えてきました。「F1グランプリ」「世界フィギュア」「世界柔道」「UEFAチャンピオンズリーグ」など世界基準のソフトを中継しスポーツの感動と興奮を視聴者へ伝え続けています。

また「すぽると!」「ジャンクSPORTS」といったレギュラー番組も好調です。さらに平成21年4月からはグループ各社と「すぽると!」が連動したスポーツ情報サイト「ENJOY! SPORT」がオープン。スポーツを見ることとすることをサポートし、スポーツハッピーライフを提案していきます。

北京五輪バレーボール
世界最終予選

■ News | 報道

「FNNスーパーニュース」は夕方のニュース激戦区で7年連続視聴率トップを達成しました。中国・四川大地震では日本のメディアとして一番に現地入りして速報。また、金正男氏単独直撃インタビューを複数回にわたり成功させるなど世界的にも反響を呼ぶ質の高い取材を続けています。昨年6月の環境月間には、主要ニュースが連動して1週間「エコプロジェクト」を展開。平成21年も年間を通じて環境問題の実態報告と提言を行っています。好評のドキュメント・ドラマでは、特攻隊を女学生の視点で描いた「なで



FNNスーパーニュース

しこ隊」、40年前の大事件の謎を新証言で追った「3億円事件」が、高視聴率とともに高い評価を得ました。また、ミャンマーの日本人記者銃撃映像が平成20年度の新聞協会賞を受賞しました。

フジネットワーク 28局

UHB 北海道文化放送(株)	KTV 関西テレビ放送(株)
MIT (株)若手めんこいテレビ (株)仙台放送	TSK 山陰中央テレビジョン放送(株)
AKT 秋田テレビ(株)	OHK 岡山放送(株)
SAY (株)さくらんぼテレビジョン	TSS (株)テレビ新広島
FTV 福島テレビ(株) (株)フジテレビジョン	EBC (株)テレビ愛媛
NST (株)新潟総合テレビ	KSS 高知さんさんテレビ(株)
NBS (株)長野放送	TNC (株)テレビ西日本
SUT (株)テレビ静岡	STS (株)サガテレビ
BBT 富山テレビ放送(株)	KTN (株)テレビ長崎
ITC 石川テレビ放送(株)	TKU (株)テレビ熊本
FTB 福井テレビジョン放送(株)	TOS (株)テレビ大分
THK 東海テレビ放送(株)	UMK (株)テレビ宮崎
	KTS 鹿児島テレビ放送(株)
	OTV 沖縄テレビ放送(株)

CS CS放送

CS放送フジテレビ721+739+CSHDは、日本最大級の野外ロックフェスティバル「FUJI ROCK FESTIVAL'08」を12時間放送、X JAPAN史上、初のライブハウス公演を生中継。「F1グランプリ2008」土日全セッション、東京ヤクルトスワローズ主催全試合の生中継。また「東京マラソン2009」では、3万人を超えるランナーのスタートとゴールを生中継するなど充実した内容でお届けしました。そして、平成21年4月1日、チャンネル名を「フジテレビONE・TWO・NEXT」とし、番組編成も一新。最強の総合エンタテインメントチャンネルを目指し、本格的HD3チャンネル体制をスタートしました。



「FUJI ROCK FESTIVAL' 08」
© Masanori Naruse

Movie 映画

平成20年度のフジテレビ映画は「少林少女」（興収15.1億円）、「ザ・ミュージクアワー」（興収39.2億円）、「セックス・アンド・ザ・シティ」（興収18.0億円）、「ゲゲゲの鬼太郎～千年呪い歌」（興収14.5億円）、「容疑者Xの献身」（興収49.2億円）、「ハッピーフライト」（興収13.3億円）、「赤い糸」（興収11.6億円）の7作品が興行収入10億円を超える大ヒットとなりました。特に「容疑者Xの献身」は連続テレビドラマ「ガリレオ」の連動企画として大きな話題となり、DVD販売においてもグループ企業である㈱ポニーキャニオンが記録的なセールスを達成しました。

また「誰も守ってくれない」はモントリオール世界映画祭で最優秀脚本賞を受賞し海外でも高い評価を得ました。



「容疑者Xの献身」
©2008フジテレビ/アミューズ/S・D・P/FNS27社

Event イベント

フジテレビ開局50周年企画として、「ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団来日公演」（サイモン・ラトル指揮）、夢のスーパーサーカス第8弾！

「シルク・ドゥ・ソレイユ」最大のツアーショー「コルテオ」を開催。東京公演の大成功に続き、「コルテオ」全国公演も好調に推移しております。そして、6年間にわたり夏の風物詩となった「お台場冒険王ファイナル」、2年目の「お台場オトナPARK」などの社屋イベントが大人気だったほか、ジャパンツアー第2弾の「マジック革命セロ」、浅草寺境内の仮設劇場で2ヶ月間に及んだ「平成中村座歌舞伎公演」、ASIMOなどヒューマノイド型ロボット博「ROBO_JAPAN」などが好評を博しました。



「コルテオ」
Costumes: Dominique Lemieux
© 2009 Fuji Television

Digital Content デジタルコンテンツ

平成20年度のデジタルコンテンツ事業は有料携帯サイト運営や映像配信サービスを中心に大きく拡大しました。総合携帯サイト「フジテレビで～す」や、バラエティ番組のトータル情報携帯サイト「フジバラエTV」、着メロ・着うたの「フジ♪メロ」など約20の携帯向け有料サービスが好調で収益に大きく貢献しました。11月からは放送中のドラマや人気バラエティ番組をはじめ、地上波人気番組を配信する「いつでもTV どこでもTV」を他局に先駆けスタート。地上波番組の最新話を放送終了後に配信する「見逃し視聴対応サービス」や過去に放送された名作などを視聴できる「アーカイブ配信サービス」が好調に推移しました。また、フジテレビ会員登録サービス「フジテレビID」の登録数は100万件を超え、アナウンサーによる情報発信サイト「アナウンスマガジン」も好評でした。



「アナウンスマガジン」

Rights Business ライツビジネス

映像ソフト事業はDVD市場が伸び悩む中、売上が106億円を突破。シリーズ合計250万枚の「人志松本のすべらない話」をはじめ、「ヘキサゴン」「SP」「ガリレオ」等々が好調。「朱蒙(チュモン)」は「DRAGON BALL」に続くメガヒットとなり、「のだめカンタービレinヨーロッパ」などのオリジナルコンテンツも充実しました。

商品化その他関連ビジネスでは「羞恥心」グッズや「浜田大明神」グッズ、「めざましテレビ」「あいのり」「サザエさん」などのグッズが収益に貢献するとともに、夏の「お台場冒険王ファイナル」では「めっちゃイケてるっ!」関連グッズが売上新記録を樹立しました。



『すべらないシリーズ』

Radio ラジオ

平成20年度も(株)ニッポン放送は、ナイター中継「ショウアップナイター」をはじめ各番組がリスナーの支持を得ました。また、9月8日から、夜の時間帯の改編を行い、月曜日から金曜日までの22時から24時までの2時間番組「銀河に吠えろ! 宇宙GメンTAKUYA」がスタートしました。さらに、11月8日～9日には、第3回目となる「ニッポン放送番組祭り THEラジオパークin日比谷2008」を日比谷公園で開催しました。一方、イベントでは、今年2月に、ニッポン放送開局55周年事業の第1弾として、オフロードウェイ・ミュージカル「ALTAR BOYZ」を東京、名古屋、大阪で上演し、1万2千人の観客を集めました。



『ALTAR BOYZ』

Production

制作グループ

(株)共同テレビジョンは、テレビ番組ではフジテレビ火9ドラマを4期連続で制作し、なかでも「セレブと貧乏太郎」や「メイちゃんの執事」は若年層を中心に絶大な支持を得て、高視聴率を獲得しました。映画は「チェスト」「ジューテームわたしはけもの」「赤い糸」の3作品を公開しました。DVD事業では「Eco Heart」をキーワードに、地球環境に配慮した取組みを行っており、製品製造時に出るCO₂を地球規模でニュートラルに保つ「カーボンオフセット」の仕組みを利用した光ディスク『カーボンパスディスク』を製造しました。その他にも、世界初の『BDハイブリッド』を商品化しました。



カーボンパスマーク

(株)フジクリエイティブコーポレーションは、フジテレビの「バナラ気分!」「全国一斉!日本人テスト」「ライオンのごきげんよう」などのレギュラー番組の制作の他に、フジテレビ開局50周年ドラマ「風のガーデン」と「ありふれた奇跡」の制作、イベントでは、「お台場冒険王ファイナル」「東京マラソン2009」「国際千葉駅伝」や「春の高校バレー」などの運営で、広範囲に活動しました。



『バナラ気分!』

(株)フジアールは、テレビ番組では「風のガーデン」や「ありふれた奇跡」など、イベントでは「お台場冒険王ファイナル」や「コルテオ」など、映画では「Baby Baby Baby」や「赤い糸」などで、美術全般をプロデュースするクリエイティブ集団としてグループに貢献しました。また、米国ABC

Production 制作グループ

ネットワークのバラエティ「Japanese Game show MAJIDE」、東海汽船の「東京湾納涼船イベント」やトヨタ自動車の「モータースポーツイベント」などの美術を担当。グループ外にも積極的に展開し、収益に貢献しました。

㈱八峯テレビは、テレビ番組をはじめとするコンテンツ制作、イベント企画・運営、システム設計・送出・送信・運用など多岐にわたる業務を執り行う総合プロダクションとして、創立41周年を迎えました。一昨年より制作・技術の両部門が力を合わせて

取組んでいるコンテンツの一つに「スカパー！Jリーグ中継」があり、全国に点在する8チームのホームゲームの中継を受注しています（関東地区において「浦和レッズ」と「FC東京」の2チームを担当）。スポーツ中継は筋骨



「スカパー！Jリーグ中継」

きのないドラマです。これに携わるスタッフの感性とチームワークを生かし、見やすく、分かりやすいコンテンツ制作を心がけ、サッカーの楽しさ、臨場感、感動を視聴者の皆様にお届けしています。

㈱フジライティング・アンド・テクノロジーは、各種テレビ番組・イベント・映画・ホテル事業の照明技術を中心にBS・CSの送出マスター支援業務などメディア事業も含めて、幅広い分野に取り組んでいます。常に活気ある「光のプロフェッショナル」として、技術の向上に努め、何事にも積極的に挑戦し、プロのライティングクリエイター集団にふさわしいクオリティの高さを目指しています。

Video & Music

映像音楽グループ



「クイズ！ヘキサゴンII」の関連楽曲を収録したアルバム『WE LOVE ヘキサゴン』



Superflyのデビュー・アルバム『Superfly』

㈱ポニーキャニオンは、音楽事業では4月のaikoのオリジナルアルバムのヒットに始まり、フジテレビ人気バラエティ番組「クイズ！ヘキサゴンII」から生まれた羞恥心のブレイクをはじめ、ヘキサゴン関連作品の大ヒットが業績に大きく寄与しました。映画部門では、「ザ・マジックアワー」や「容疑者Xの献身」がDVDリリースされ大ヒットしました。映像部門では、韓流ドラマ「蕃童謠(ソドンヨ)」、フジテレビドラマの「医龍」など、アニメ事業では「CLANNAD」シリーズなどが収益に貢献しました。

㈱フジパシフィック音楽出版は、シングルで、羞恥心の「羞恥心」や「泣かないで」、そして同じく「クイズ！ヘキサゴンII」発のユニット、アラジンの「陽は、また昇る」などが収益を押し上げました。また、アルバムでも、ヘキサゴン関連楽曲を収録した「WE LOVE ヘキサゴン」、そして、新人ながらヒット・チャート初登場1位を獲得したSuperflyのデビュー・アルバム「Superfly」などが大ヒットしました。

Life Information

生活情報グループ

(株)ディノスの通販売上はインターネット事業やファッション事業の好調に支えられて順調に推移しました。テレビ事業も、平成20年10月のフジテレビ番組改編でスタートした新番組において、前年を超える実績となりました。また、平成21年1月にオープンしたWEBサイト「Do!スポーツ.jp」により、スポーツマーケットの拡大への布石を打ちました。このサイトはフジテレビの総合スポーツサイト「ENJOY! SPORT」とリンクをし、充実した情報を提供していきます。

(株)サンケイリビング新聞社は、女性向けフリーペーパーの発行を



カタログ『ディノスリビング』『カーラ』



『KANSAI一週間』



『シュフモ』

軸として活動する「総合女性マーケティング企業」です。今年で創業38年です。創業と同時に創刊された主婦向けの「リビング新聞」は全国57エリア850万部を発行する世界最大級のフリーペーパーネットワークです。また、OL向け職域配布の「シティリビング」や幼稚園児と母親向けの「あんふぁん」の発行をはじめ、平成20年9月には講談社との提携による情報誌「KANSAI一週間」の発行、同年11月には三菱商事およびニフティとの提携による主婦向け携帯サービス「シュフモ」をスタートさせました。

Advertising

広告グループ

“不動産の日” 広告展開



(株)クオラスとして初の通期決算となり、売上高340億円でした。リーマン・ショックによる金融危機とそれに続く景気低迷の影響により、金融広告の大幅減、エンタテインメント関係の広告減などがありました。その一方で、4社の統合効果により、下期に入り、新規大型取引先の獲得や、フジ・メディア・ホールディングスグループ各社との共同事業、単体での企画制作のイベント売上などが収益に貢献しました。広告・プロモーションの提案においては、複数のメディアやイベントなどを用いて効率的なコミュニケーションを展開する“クロスメディア”での企画提案・実施に、特に積極的に取り組み、収益の向上を目指しています。

Others

出版・情報・その他グループ

(株)扶桑社は、出版業界の不況の煽りを受け、特に雑誌の広告売上にその影響が出ました。そのような環境の中、時代とともに変化する読者のニーズを的確に捉え、将来に備えての布石を打つ年となりました。年度末の3月に創刊した女性向け月刊誌「amarena」はその一例で、同誌はインテリジェントとファッションナブルを基本コンセプトにしています。創意工夫を凝らした本作りに取り組み、収益の改善を目指します。

(株)フジミックは、IT関連事業を柱とした高度情報化を推進、社会貢献を目指している企業です。放送関連のシステム開発をはじめとして、民間・官庁向けなど様々な分野のお客様に対してSIソリューションを提供しています。また、業務パッケージの開発・販売、ハードウェアセンサーの開発、ホームページ・携帯サイトの構築・運用まで、幅広いフィールドにおいて、サービスを提供しています。今後も日進月歩する最新技術をもって次世代ニーズに最適なサービスを提供できる企業へと挑戦を続けていきます。

『amarena』創刊号



vol.5 CSR 通信

Corporate Social Responsibility Report

フジ・メディア・ホールディングスではCSRを、当社およびグループ各社の持続的な成長を確保するための活動と位置づけています。今年3月には、第1回フジ・メディア・ホールディングスCSR推進委員会を開催し、グループ各社で情報を共有するとともに共通の目標に向かって動き始めました。

環境活動

フジ・メディア・ホールディングスは、地球規模で起きている環境問題をグループ各社の事業活動の中で伝え、国民の皆様とともに考え、行動することの重要性を共有することが第一の任務と認識しています。

■グループ各社の主な環境活動

(株)フジテレビジョンでは、社内横断組織「CSR推進プロジェクト エコ・パッケージチーム」が主体となり、ベンチャー企業と協働で社内のシュレッダーゴミを利用したバイオプラスチック製DVDトレイを開発。3月に発売した『ウゴウゴ・ルーガDVDエコシリーズ』で商品化しました。

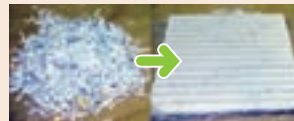
(株)フジアルは、番組等の美術セット制作の分野で紙資源を再利用した『アルエコパネル』を開発し、2008年日本映像美術協議会JVA賞・優秀賞を受賞しました。

(株)ディノスでは、「低ホルム家具特集」や「省エネグッズ特集」などの企画、「クーポン付エコクイズキャンペーン」などを実施。お客様のお買い物がエコにつながる取り組みや、環境情報の発信に力を入れています。また、eco検定合格者(通称「エコピブル」)を中心とした自主的な活動と、環境ISO14001に基づいた全社的な活動を通して、環境改善に取り組んでいます。

その他グループ各社ではチーム・マイナス6%への参加や省エネ機器の導入など、省資源・省エネルギーに継続的に取り組んでいます。



フジテレビ社内シュレッダーゴミから誕生したDVDトレイ



紙資源を再利用した美術セット「アルエコパネル」



読者層を意識したディノスの、環境活動スローガン

社会貢献活動

フジ・メディア・ホールディングスは、メディア・グループとしての社会への貢献を常に意識し、その特質を生かした災害情報提供や芸術・文化活動など様々な分野での社会貢献活動を推進しています。

■グループ各社の主な社会貢献活動

(株)フジテレビジョンでは、CSR推進室と人気情報番組『めざましテレビ』、並びにアナウンス室が連動して、2007年から『めざましムービー無料上映会&朗読会』を日本各地で行っています。今年は、北海道滝川市で難病の子どもの医療付き宿泊施設『そらぶちキッズキャンプ』など、すでに全国3ヶ所で実施しました。

(株)ニッポン放送は、今年で35回目を迎える『ラジオ・チャリティ・ミュージックソン』を通じて、眼の不自由な方への『通りゃんせ基金』の募金活動を展開しています。その他、ラジオの特性を生かした災害時対応にも積極的に取り組み、東京都、神奈川県、私立小・中・高校と首都圏の国立付属の小・中・高校の約680校の児童生徒を対象に、安否情報を伝える『学校安否情報』や、有楽町本社を拠点に周辺のビル261棟、明治安田生命新宿ビルを拠点に周辺のビル34棟が登録する『お勤め先安否情報』を継続的に実施しています。

(株)サンケイリビング新聞社とリビング新聞グループ各社は、主な読者層である女性たちの活躍を支援することを、『ダイバーシティマネジメント(個々の多様性を生かす経営戦略)』の第一歩と捉え、女性の自立性を高め能力を生かすスキル向上の研修システム『アカデミア・ミネルヴァ』を社業として実施しています。また、全国の主婦が自分たちの生活に役立った新商品・新サービスを選ぶ、『助かりました大賞』を1994年から継続的に実施。生活者主体の賞として定着し、今年度は3万4,132人の投票がありました。

その他グループ各社では、メディアの特性を生かして、災害時の義援金をはじめとする募金活動やエイズ予防などを啓発するキャンペーン活動に積極的に取り組んでいます。



「助かりました大賞」読者審査員と受賞社代表



朗読会場でのフジテレビ藤村アナと戸部アナ



「通りゃんせ基金」申し込みの電話を受ける款本款一さん



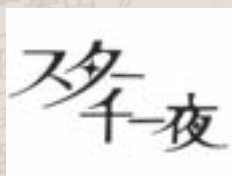
特集 フジテレビ開局50周年

テレビ時代の到来“母とこどものフジテレビ”開局

1959年3月1日午前9時。「JOCX-TVこちらはフジテレビ。第8チャンネルです。」アナウンサーの第一声とともにテレビ画面にテストパターンが映し出されました。ついに本放送の開始、フジテレビの開局です。“母とこどものフジテレビ”をモットーに、新宿区河田町から、従業員数417名によるスタートでした。



1959 フジテレビテストパターン



1959-1981 スターキー夜



1961-1982 スバリ当てましょう!



1963-1964 三匹の侍



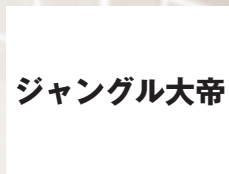
1963-1966 鉄腕アトム



1964 - ミュージックフェア



1965-1982 小川宏ショー



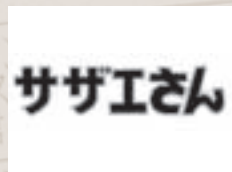
1965-1966 ジャングル大帝



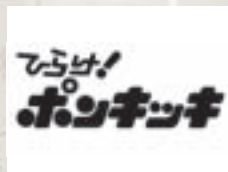
1966-1982 ママと遊ぼうピンポンパン



1968-1990 夜のヒットスタジオ



1969 - サザエさん



1973-1993 ひらけ!ポンキッキ



1976-2001 プロ野球ニュース

1977 - バレーボールワールドカップ
(大会キャラクター「バボちゃん」)

3月1日開局

1959

開局時の社屋

開局当時の
撮影風景

日本初の長編
カラーアニメ
「ジャングル大帝」
放送開始

1965

スタジオカラー
放送開始

フジサンケイ
グループ始動

1967

1968

開局10周年記念
タワースタジオ
完成

1969

民放最大27局
FNSネットワーク
体制整う

1970

FNS
シンボルマーク
制定

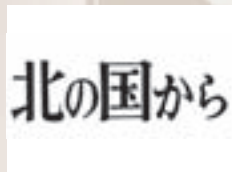


1973

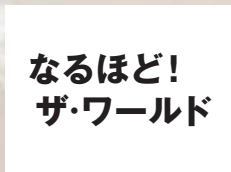
特集 フジテレビ開局50周年

フジテレビ第2の開局 楽しくなければテレビじゃない

「楽しくなければテレビじゃない」のキャッチフレーズのもと、フジテレビは大きく変わります。そして1982年には初の年間視聴率三冠王を獲得、その後12年間連続その座を堅持しました。1984年には営業売上も1位に。以降現在に至るまで民放売上NO.1の座を開け渡していません。



1981-2002 北の国から



1981-1996 なるほど!ザ・ワールド



1981-1989 オレたちひょうきん族



1982- 笑っていいとも!



©フジテレビ/学研/蔵原プロ

1983 映画「南極物語」



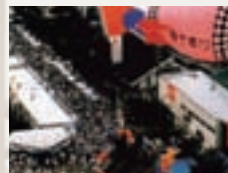
1984-1997 FNNスーパータイム



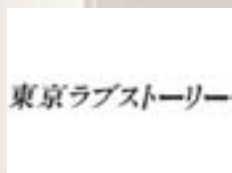
1987 FNSスーパースペシャル 1億人のテレビ夢列島 (「FNSの日」スタート)



1987- F1グランプリ



1987 コミュニケーションカーニバル夢工場'87



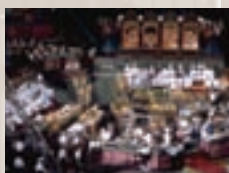
1991 東京ラブストーリー



1991 101回目のプロポーズ



1992 ファシナシオン (シルク・ドゥ・ソレイユ第1弾)



1993-1999 料理の鉄人



1994- めざましテレビ



「楽しくなければテレビじゃない」ポスター

1980

初の年間視聴率三冠王達成

1982

営業売上民放トップに (以降26年間継続中)

1984



「目ん玉マーク」制定

1986



F・SATシステム配備完了 通信衛星時代へ

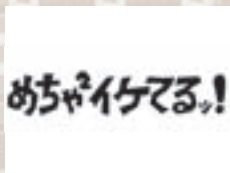
1990

12年連続年間視聴率三冠王達成

1993

テレビは新メディアへ 東証一部上場、お台場新社屋、フジ・メディア・ホールディングス

1997年4月フジテレビは本社屋を港区台場に移転、8月8日には東京証券取引所第一部への上場を果たしました。テレビは多チャンネル時代へ。1998年にはCSデジタル放送を、2000年には「BSフジ」を開局しBSデジタル放送を開始、地上波、CS、BSの三波体制となりました。2007年には江東区青海に湾岸スタジオを建設、「デジタルコンテンツファクトリー」としてコンテンツ制作力をさらに強化しました。そして、2008年10月1日、「我が国を代表するメディア・コングロマリット」を目指して、日本初の認定放送持株会社体制に移行。(株)フジ・メディア・ホールディングスに商号変更し、新設分割により、株式会社フジテレビジョンを設立しました。



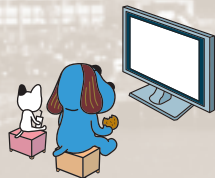
1996 - めっちゃイケてるッ!



1998 映画「踊る大捜査線 THE MOVIE」



2002-2006 トリビアの泉



2003-2008 お台場冒険王



2005 - クイズ!ヘキサゴンII



2006 のだめカンタービレ



2008 風のガーデン



港区台場に
社屋移転



東証一部上場

CSデジタル
放送開始

フジテレビ
ONE TWO NEXT

※フジテレビONE (1998 フジテレビ721として放送開始)
フジテレビTWO (2000 フジテレビ739として放送開始)
フジテレビNEXT (2008 フジテレビCSHDとして放送開始)



マスコット・キャラクター
「ラフ君」誕生

BSフジ
放送開始



東阪名で
地上デジタル
放送運用開始



湾岸スタジオ
グランドオープン



認定放送持株会社フジ・メディア・
ホールディングスに商号変更
新設分割により、株式会社フジテレビジョン
設立

3月1日
開局50周年

1997

1998

2000

2003

2007

2008

2009

50
thanks
FUJI TELEVISION 50th ANNIVERSARY

2009年3月1日フジテレビは

開局50周年を迎えることができました。
今後ともより一層のご支援を賜りますよう、
よろしくお祈りします。

連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位：百万円)

	当連結 会計年度	前連結 会計年度
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
資産の部		
① 流動資産	294,369	253,577
② 固定資産	389,153	423,423
有形固定資産	166,652	181,146
無形固定資産	45,851	47,929
投資その他の資産	176,649	194,347
資産合計	683,523	677,000



① 流動資産

有価証券が増加したことなどにより、前期末比407億92百万円の増加となりました。

② 固定資産

有形固定資産・無形固定資産が減価償却などで減少したことや、投資その他の資産において、投資有価証券の時価評価差額が減少したことなどにより、前期末比342億69百万円の減少となりました。

③ 流動負債

未払法人税等の増加などにより、前期末比61億87百万円の増加となりました。

④ 固定負債

退職給付引当金の増加などにより、前期末比30億17百万円の増加となりました。

	当連結 会計年度	前連結 会計年度
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
負債の部		
③ 流動負債	121,613	115,425
④ 固定負債	108,514	105,497
負債合計	230,127	220,922
純資産の部		
株主資本	459,273	450,682
資本金	146,200	146,200
資本剰余金	173,664	173,664
利益剰余金	154,913	146,322
自己株式	△ 15,505	△ 15,505
評価・換算差額等	△ 10,482	649
その他有価証券評価差額金	△ 7,782	1,416
土地再評価差額金	358	△ 463
為替換算調整勘定	△ 3,057	△ 302
少数株主持分	4,604	4,745
純資産合計	453,395	456,077
負債・純資産合計	683,523	677,000

連結損益計算書 (単位: 百万円)

	当連結会計年度	前連結会計年度
	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで
売上高	563,320	575,484
売上原価	383,524	390,778
売上総利益	179,796	184,706
販売費及び一般管理費	159,966	160,333
営業利益	19,830	24,372
営業外収益	6,596	6,923
営業外費用	4,060	4,239
経常利益	22,365	27,056
特別利益	31,229	8,901
特別損失	17,902	6,431
税金等調整前当期純利益	35,692	29,526
法人税、住民税及び事業税	17,884	11,591
法人税等調整額	1,356	1,860
少数株主利益	△ 115	303
当期純利益	16,567	15,770






連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)

	当連結会計年度	前連結会計年度
	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	84,760	25,383
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 36,728	△ 41,488
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,410	△ 9,367
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3,067	△ 116
現金及び現金同等物の増減額	35,553	△ 25,588
現金及び現金同等物の期首残高	80,171	104,324
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	1,435
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	913	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 40	—
現金及び現金同等物の期末残高	116,598	80,171

連結株主資本等変動計算書 (単位: 百万円)

当連結会計年度 平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成20年3月31日残高	146,200	173,664	146,322	△15,505	450,682	1,416	△463	△302	649	4,745	456,077
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△8,291		△8,291						△8,291
当期純利益			16,567		16,567						16,567
土地再評価差額金取崩高			△821		△821						△821
連結範囲の変動による増加高			749		749						749
持分法適用範囲の変動による増加高			387		387						387
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					—	△9,198	821	△2,754	△11,131	△141	△11,272
連結会計年度中の変動額合計	—	—	8,590	—	8,590	△9,198	821	△2,754	△11,131	△141	△2,682
平成21年3月31日残高	146,200	173,664	154,913	△15,505	459,273	△7,782	358	△3,057	△10,482	4,604	453,395

主要各社業績

		平成21年3月期	平成20年3月期
(株)フジテレビジョン 	売上高	347,877	382,971
	営業利益	17,872	22,420
	経常利益	22,373	27,861
	当期純利益	9,426	15,121
(株)ニッポン放送 	売上高	22,518	23,189
	営業利益	166	351
	経常利益	200	400
	当期純利益	66	676
(株)ポニーキャニオン 	売上高	54,976	55,313
	営業利益	1,609	812
	経常利益	1,874	1,000
	当期純利益	966	266
(株)ディノス 	売上高	60,954	63,254
	営業利益	662	△2,423
	経常利益	695	△2,442
	当期純利益	182	△3,079
(株)クオラス 	売上高	34,007	24,883
	営業利益	△12	356
	経常利益	△39	332
	当期純利益	△247	△71

注1. (株)フジテレビジョンの平成21年3月期の業績は、会社分割前の旧フジテレビジョン(4月～9月)の業績と会社分割後の新設フジテレビジョン(10月～3月)の業績を合算した数値です。

注2. (株)クオラスの平成20年3月期の業績は、平成19年10月1日の(株)クオラス統合前の期間(4月～9月)に関しては、(株)ビッグショットの業績を集計しています。

会社概況

Corporate Data

◎ 会社概要 (平成21年3月31日現在)

会社名 株式会社フジ・メディア・ホールディングス

FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

事業内容 認定放送持株会社

設立 昭和32(1957)年11月18日

株式会社フジ・メディア・ホールディングスは、平成20年10月1日付で、認定放送持株会社への移行に伴い、「株式会社フジテレビジョン」から商号変更し、「株式会社フジテレビジョン」の事業は新設の「株式会社フジテレビジョン」が承継しました。

決算期 3月31日

資本金 1,462億35万円

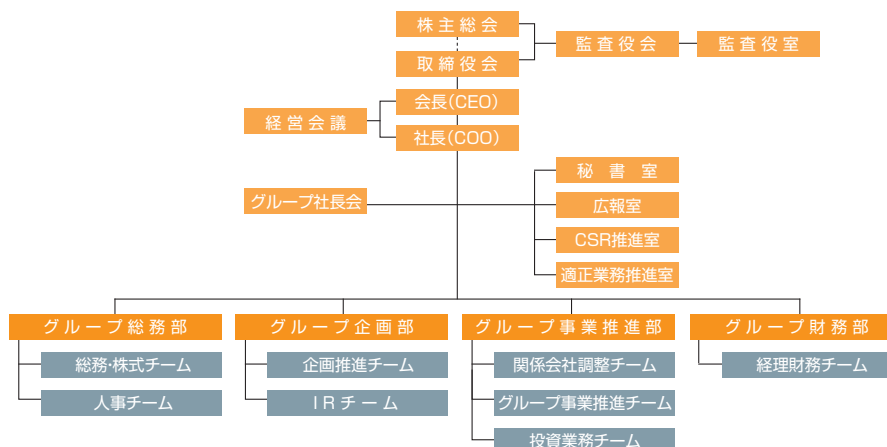
連結従業員数 5,095名(平成21年3月31日現在)

本社 〒137-8088東京都港区台場二丁目4番8号

◎ 役員 (平成21年6月26日現在)

代表取締役会長	日枝	久
代表取締役社長	豊田	皓
専務取締役	太田	英昭
常務取締役	嘉納	修治
常務取締役	飯島	一暢
取締役	遠藤	龍之介
取締役	横井	亮介
取締役	小櫃	真佐己
取締役	堀口	壽一
取締役	鈴木	克明
取締役	関	祥行
取締役	前田	和也
取締役	稲木	甲二
取締役	松岡	功
取締役	三木	明博
取締役	石黒	大山
取締役	横田	雅文
取締役	別府	隆文
取締役	清原	武彦
常勤監査役	尾上	規喜
常勤監査役	瀬田	宏
監査役	茂木	友三郎
監査役	南	直哉
監査役	奥島	孝康

◎ 組織図 (平成21年3月31日現在)



株式情報

(平成21年3月31日現在)

Investor Information

◎ 株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,364,298株
株主数	75,453名

(注)発行済株式の総数には自己株式及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)が含まれております。

◎ 大株主

株主名	持株数 (株)	比率 (%)
東宝株式会社	183,221	7.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	107,234	4.54
シービーニューヨーク オービス エスアイシーアーヴィー	96,940	4.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	94,419	3.99
シービーニューヨーク オービス ファンズ	91,843	3.88
株式会社文化放送	77,920	3.30
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000	3.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	72,370	3.06
関西テレビ放送株式会社	54,461	2.30
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社電通口)	46,500	1.97

(注)上記のほか当社所有の自己株式61,202株があります。

お知らせ

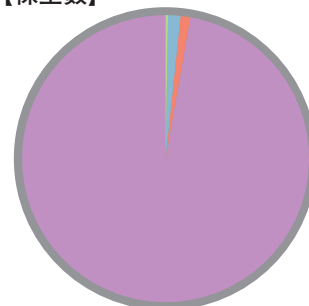
フジ・メディア・ホールディングスのHP上に「IR情報」が掲載されています。最新のIRニュースや決算情報などがご覧いただけます。

フジ・メディア・ホールディングスHP
→「株主・投資家情報」
<http://www.fujimediagd.co.jp/index.html>



◎ 所有者別株式分布状況

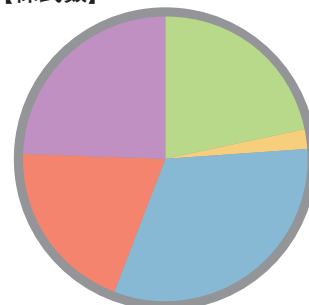
【株主数】



政府及び地方公共団体	1名	(0.0%)
金融機関	135名	(0.2%)
金融商品取引業者	35名	(0.0%)
その他の法人	565名	(0.7%)
外国法人等	423名	(0.6%)
個人その他	74,294名	(98.5%)

(注)比率は小数第2位を四捨五入しております。

【株式数】



政府及び地方公共団体	2株	(0.0%)
金融機関	517,636株	(21.9%)
金融商品取引業者	52,875株	(2.2%)
その他の法人	755,954株	(32.0%)
外国法人等	460,619株	(19.5%)
個人その他	577,212株	(24.4%)

(注1)「その他の法人」には、証券保管振替機構(失念株式)名義の株式が407株含まれております。

(注2)「個人その他」には、自己株式61,202株及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)151,597株が含まれております。

(注3)比率は小数第2位を四捨五入しております。

株 主 メ モ

事業年度 4月1日～3月31日
配当金受領の株主確定日 3月31日および中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会 6月下旬

外国人等の株主名簿への
記載記録の制限等

当社は、放送法で定める外国人等（①日本の国籍を有しない人、②外国政府又はその代表者、③外国の法人又は団体、④「①から③までに掲げる者」により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体）の有する議決権について、①から③までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により④に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が、議決権の20%以上となる場合には、放送法の規定により、認定放送持株会社の認定が取り消されることとなります。そのため、このような状態に至るときには、放送法の規定に基づき、外国人等からの株式の名義書換請求等による株主名簿への記載・記録を拒否し、又は、外国人等の議決権行使を制限することができるとされています。なお、当社は、外国人等の有する議決権数の議決権総数に占める割合が15%以上となった場合には、放送法および放送法施行規則の規定により、6か月ごとに公告を行います。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関

東京都中央区八重洲1丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

事務取扱場所

東京都中央区八重洲1丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

公告の方法

産業経済新聞に掲載する方法により行います。

株式に関するお手续

●株式に関する各種お手续（住所変更、配当金受領方法の指定など）は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いしております。詳しくは、お取引証券会社にお問い合わせください（ただし、郵送物等の発送と返戻に関するご照会と株式事務に関する一般的なお問合せは、株主名簿管理人：下記のフリーダイヤルにお問い合わせください）。

●株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていなかった株主様の株式につきましては、「特別口座」で管理されております。「特別口座」に関する各種お手续（証券会社の口座への振替、住所変更、配当金受領方法の指定など）は、従来どおり、みずほ信託銀行株式会社にてお取扱いいたします（同行各支店においても取次ぎを受け付けます）。
なお、「特別口座」の詳細につきましては、下記のフリーダイヤルにお問い合わせください。

◎フリーダイヤル 0120-288-324

●未払配当金の取次ぎにつきましては、「みずほ信託銀行株式会社全国各支店」又は「みずほインベスターズ証券株式会社本店および全国各支店」においても受け付けます。

株主優待のお知らせ

平成21年3月31日の最終株主名簿に記載された1株以上を保有する株主様に、**1 2 3 4**の優待品の中から、ご希望の品物を一点お送りいたします。以下の応募要領にしたがってお申し込みください。

以下 **1 2 3 4** の中から、ご希望の優待品を1点お選びください。

1 フジテレビ「アナマガ+Premium」特製 アナウンサーオリジナル・クオカード(額面500円)

※「アナマガ+Premium」とは、フジテレビアナウンサーのオリジナル動画等を配信するフジテレビホームページの有料会員制マガジン。



2 フジテレビONE・TWO・NEXT(ワンツーネクスト) 特製グッズ3点セット(エコバッグ、4色ボールペン、ネックストラップ)

※「フジテレビONE・TWO・NEXT」とは、フジテレビのCS放送3チャンネルの総称。



3 ディノスの人気商品「魚沼産新米こしひかり1Kg」

※主婦の皆様にご好評をいただいている商品。1kgは6~7合(お茶碗12~14杯分)となります。
※天変地異により、お米の産地が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。



4 扶桑社のファッション・カルチャー誌 「amarena(アマレーナ)2ヶ月無料購読」

※無料購読対象となる「2ヶ月」⇒平成21年11月号、12月号。
※「amarena」は今年3月に創刊された月刊誌。知的美的探究心に富み、桜(アマレーナ)のように愛らしく、しっかりと実をつけ今を生きる女性におすすめ。



※写真は見本です。デザインは一部変更となる場合がございますのでご了承ください。

【応募要領】

- お申し込み方法 → 同封の「フジ・メディア・ホールディングス株主優待プレゼント申込ハガキ」にお名前(フルネーム)・フリガナ・郵便番号・ご住所・電話番号・ご希望の品物番号を記入し、必ず締め切り日までにご返送ください。
※「申込ハガキ」にご記入いただいたお名前、ご住所等の個人情報は、品物発送以外の目的では使用いたしません。
- 締め切り → 平成21年9月1日(火)到着分をもって締め切りとさせていただきます。
※締め切り後に到着したハガキは無効となります。ご了承ください。
※ご希望の品物は、10月中旬から11月上旬にかけてのお届けとなります。
- お問合せ先 → フリーダイヤル **0120-357-188** 受付時間：平日(土日休日除く)9時30分~17時30分